



号外

地域交通新聞

平成30年11月29日



西大寺バスセンターの両備バス

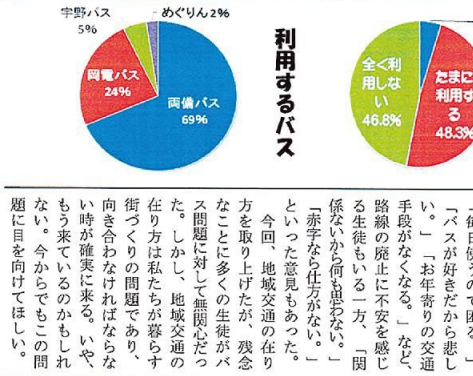
地域交通新聞

どうなる!? 地域のバス路線

新開部では、地元西大寺発祥の両備バスが問題提起した地域交通の在り方について考えることにした。この問題では、八尾運輸(めぐりん)が、岡山・西大寺間に新規参入したことにより、表面化した課題である。

近年バス事業者数は増加傾向にある。国土交通省の調査では、路線バスの事業者数は、平成18年に千八百七社(民営千四百九十九社、公営三百七十八社)だったのに対し、平成28年には二千二百六十七社(民営二千二百四十七社、公営二百二十社)となつて

多くの路線が廃止の危機 ~赤字が浮き彫りに~
今年二月、両備ホールディングス(株)は、グループ2社が運行する路線バスの廃止届を中国運輸局提出したと発表。廃止届は、両備バス36路線のうち18路線、13路線のうち18路線、13路線のうち18路線、13路線のうち18路線...
●岡山地区
西大寺 西大寺 西大寺
●玉野地区
玉野 玉野 玉野
●倉敷地区
倉敷 倉敷 倉敷



公営(二十五社)となつており、10年前に比べて2倍にもなっている。一方で輸送人員は平成18年に四千二百六十七万人だったのに対し、平成28年は四千二百八十七万人とほぼ横ばい。そのためにバス事業者は価格競争を迫られている。

この背景には、平成14年に施行された改正道路運送法の規制緩和があり、これにより新規事業者が黒字路線に参入し始めたことが、赤字路線を運行している会社に黒字路線の利益を元にした

存続を望む バス利用者の声
西大寺バスセンターでバス利用者にインタビューを行った。その中から、いくつかを紹介する。
○七十代女性
「買い物に行く時にバスを利用します。私の使う路線は便が少ないから少し不便です。病院に行く時は娘に送ってもらっているけど、予定が合わない時もあるから、合わない時もあるから」と困りますね。
○二十代男性
「いつも仕事の行き帰りにバスに乗っています。乗客の少ない地域は便も少ないです。それに住む方は移動手段も限られてくると思うので、年配の方や車を持たない人がこれからも、バスを利用できるように、廃止しないでほしいですね。」

アンケートから考える 西高生の意識
九月月上旬、全校生徒を対象にバスについてのアンケートを行った。質問は、通学でのバス利用やバス路線廃止についての意見等を聞いた。
その結果、西高はバス通学の生徒が割程度と少なかった。しかし、休日などに通学以外利用する生徒数は五割を超えており、その目的は買い物や映画などが多かった。高校生でも行き先が自車で遠かったり天候が悪かったりする場合などは比較的にバスが利用されていると考えられる。利用していない生徒の意見では「近くにバス停がない」「他に交通手段がある」が多かった。また、利用しているバスは、約七割が両備バスだった。西大寺を起点とする多くの路線を有する両備バスは、西高生にとっても親しみがあるようだ。

地域のバス路線の廃止問題を丁寧に取材しまとめています。存続を望むバス利用者への聞き取り、高校生へのアンケートを通じて「自分たちの問題」として訴えており、読み応えがあります。